外科専門医・消化器外科専門医
研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー　静岡県立総合病院　副院長　高木　正和

全国的に外科医の減少が危惧されています。今日の外科医、とりわけ消化器外科医は診断、手術、術後治療(管理)、癌再発に対する化学療法や緩和的治療など非常に守備範囲が広く、そのため多くの他職種の医療者とのチーム医療の中でリーダーの役割が要求されています。

われわれは多くの症例を経験することで自らの手術手技と医療者としての人格を磨きますが、その中で時間のかかる手術手技の習得に焦りを感じたり、無力感に襲われることもあることでしょう。

しかし、若い外科医からベテランの外科医まで、外科医には経験によって培われた様々な段階の技術や人格に応じて必ず救える患者が目の前に存在します。研修の途中でも必ず感謝してくれる患者がいます。外科医も決して捨てたものではありません。

われわれは外科医に与えられたこうした醍醐味を一人でも多くの外科医志望者に味わっていただけるよう、そして専門医の資格を取得できるよう、すべての施設の外科医が全力で協力します。

2 目　的

外科医を志望する後期研修医が、静岡県中部の病院を３年間ローテートし、「外科専門医」試験に合格することを主目的としています。

すなわち、医の倫理を体得し，医療を適正に実践すべく一定の修練を経て，診断，手術および術前後の管理・処置・ケアなど，一般外科医療に関する標準的な知識と技量を修得することです。

さらに、同じ病院群で連続して経験を積んで「消化器外科専門医」取得を目指すことができます。

3 特　徴

「外科専門医」を目指す後期研修医が、短期間で効率よく必修項目を研修できるように作成されたプログラムです。

ローテートするのは静岡県中部の公的病院で、いずれも手術件数の豊富な急性期病院です。一施設では経験する手術や疾患に偏りが生じることもあるため、このプログラムでは互いの施設が連携し、それぞれの特徴を活かして、外科診療を万遍なく学べるよう配慮されています。さらに本プログラムの「外科専門医プログラム」を終了した者が「消化器外科専門医研修プログラム」の対象となります。

各施設には「日本外科学会」、「日本消化器外科学会」の指導医または専門医がおり、責任をもって指導にあたりますが、出身大学が多彩でもあり、それぞれに“カラー”があると思われます。同じ疾患でも施設や指導医によって治療方針、手術方法に違いがあることを知ることも広い見識を養ううえで重要であり、多施設研修の大きな利点です。

静岡市近辺は都会と地方が程良く混ざり合った土地柄で、エンジョイしながら勉強するには恰好の環境と言えます。ぜひこのプログラムに参加してください。

4 研修カリキュラム

「日本外科学会」の『外科専門医修錬カリキュラム（平成23年１月25日改訂）』、及び「日本消化器外科学会」の『消化器外科専門医修錬カリキュラム（平成20年12月改訂）』に準じます。

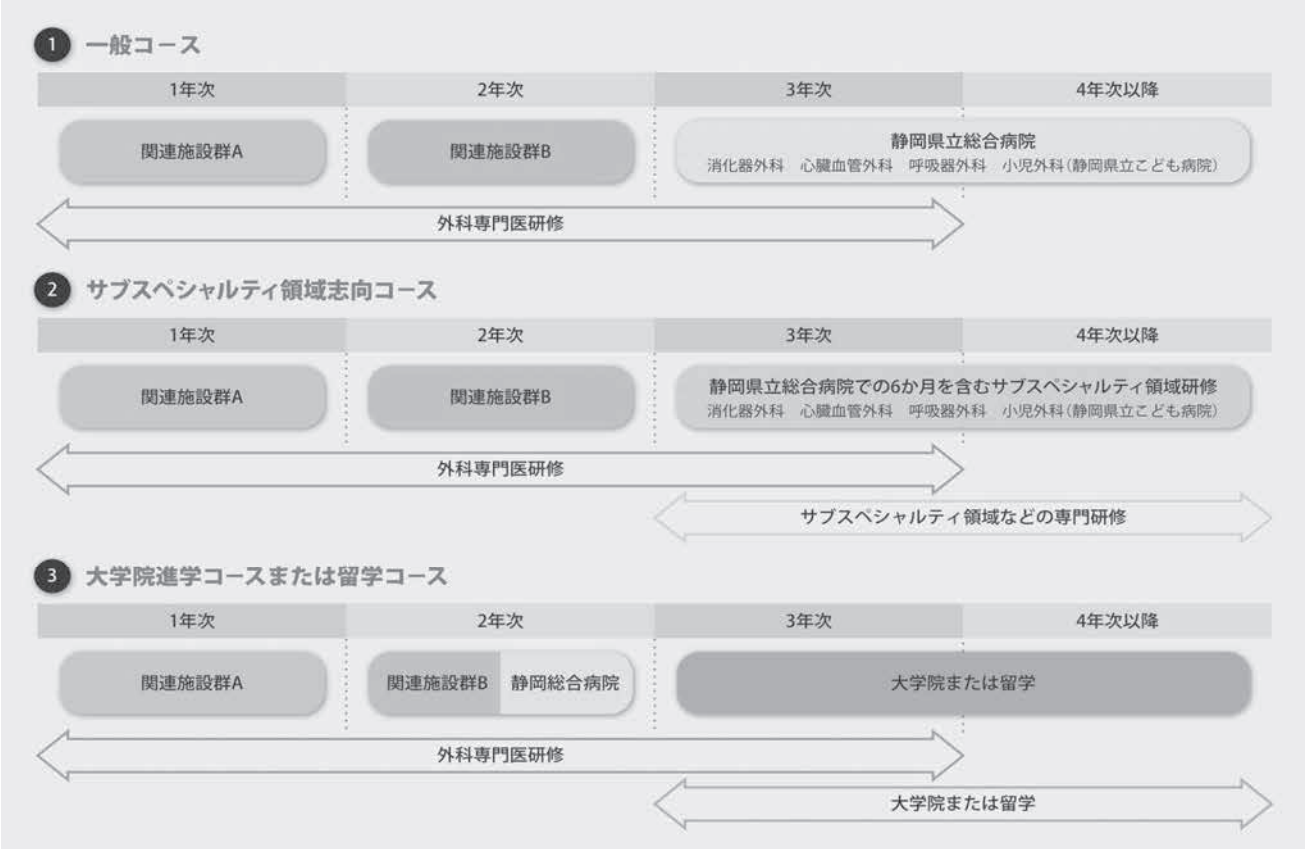
5 研修内容

原則として、３病院で各１年ずつ計３年間の研修を行います。

専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

専門研修２年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。

専門研修３年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャルティ 領域専門医取得に向けた技能研修や大学院進学、留学が可能です。



6 研修病院群

連携施設群Ａ；静岡市立静岡病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院

連携施設群Ｂ；焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、市立島田市民病院、静岡市立清水病院、伊豆今井浜病院

連携施設群Ｃ；静岡県立こども病院（静岡県立こども病院は基幹施設研修中に派遣研修）
浜松医科大学